

食品中の異物検査結果（令和5年度）

－医動物担当で行った同定検査－

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。種類を同定することによって、発生源などが分かり、混入経路の推定につながります。

令和5年度の食品中異物検査実績は昆虫類4件（ハエ目2件、チョウ目1件、コウチュウ目1件）でした。検査結果の詳細は次のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
購入した総菜パン(自家製豚ハム入り)に幼虫が混入していた。 (5月)	 幼虫、乳白色、約11mm	ヒロズキンバエ (ハエ目)	幼虫は動物の死体、塵芥、動物の糞などから発生する。成虫は、人家周辺、ゴミ処理場などでみられる。日本に広く分布する。
購入した精米に虫が混入していた。 (6月)	 幼虫、黄褐色、約20mm	イッテンコクガ (チョウ目)	成虫の発生は年に1～2回。幼虫は小麦、大豆等、穀類とその加工品を加害する。
	 成虫、赤褐色、約3mm	ヒラタコクヌストモドキ (コウチュウ目)	穀粉害虫として最も普通にみられる種。植物質から動物質まで様々な食品を加害する。
購入した総菜パンにコバエが混入していた。 (9月)	 成虫、褐色、約2mm	ノミバエ科の一種 (ハエ目)	多くは野外性であるが、屋内でも普通にみられる。敏しように動き、食卓や台所を歩き回る。幼虫は腐敗した動植物質、漬物、ごみなどから発生する。